



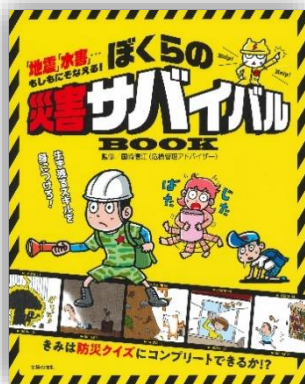
『ぼくのなまえはへいたろう』  
灰島かり // 文 殿内真帆 // 絵  
福音館書店

「へいたろう」っていう名前のぼく。「むかしの人みたい」とみんなから笑われて落ち込むぼくに「名前を変えれば？」と友達が言います。でも改名するのはとても大変なんだって聞いて…。

人気の名前や、世界の国々の名付けの習慣（わざと奇妙な名前をつける）など、名前を通して様々な事を知ることができる絵本です。

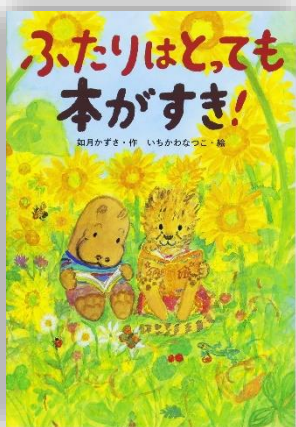


『ぼくらの災害サバイバルBOOK』  
国崎信江 // 監修 主婦の友社 // 編  
主婦の友社



「スマホから緊急地震速報が！正しいのはどっち？」「雷が鳴って大雨が！逃げ込むのはどっち？」AとB、君は正しい答えを選べるかな？

自然災害を生きのびるには、子どもだって正しい防災知識を身につけて、いざという時すばやく行動にうつすことが大切。クイズに全問正解するまでチャレンジして、君も防災マスターを目ざそう！



『ふたりはとっても本がすき！』  
如月かずさ // 作 いちかわなつこ // 絵  
小峰書店

あなたはどんな本の読み方をしますか？ 続きが気になって戻ることなくスラスラ読むチッタちゃん。何度も戻ってじっくり本の世界を楽しむヒポくん。これは本の読み方が違う、本好きのチッタちゃんとヒポくんが会うお話。

こんな 読み方も素敵だなと教えてくれる本です。

## 図書館おすすめブックリスト

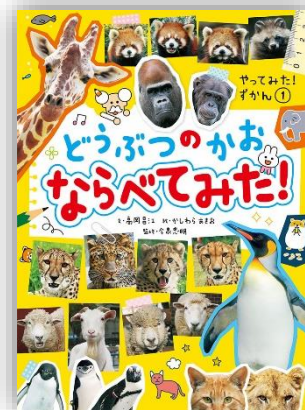
2019年7月発行

編集・発行 砺波市立図書館



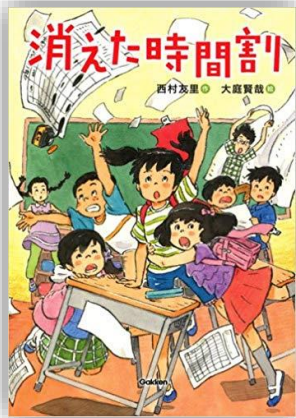
ココロふるえる本との出会いで  フル充電!!

No. 9 低・中学年おき



『どうぶつのかおならべてみた！』  
高岡昌江 // 文 かしわらあきお // 絵 今泉忠明 // 監修  
ポプラ社

おや？同じ種類の動物たちだけど、みんなそれぞれ違う顔をしているね。レッサーパンダやゴリラ、ペンギンなど、いろんな動物の生態や、見分け方などを知ることができるユニークな写真絵本です。動物を見分ける楽しいクイズも載っているので、本をよく見ながら考えてみてくださいね。



『消えた時間割』

西村友里 // 作 大庭賢哉 // 絵  
学研プラス

墨汁で汚れてしまった時間割。汚れた時間割をもらった子は、ケガや先生からの呼び出しなどで汚れた部分に書かれていた授業を欠席してしまう。どうやら墨汁に秘密があるらしく…。

時間割のほとんどが黒くなってしまった子は一体どうなるのか。子どもたちは助ける方法を必死に探します。ページをめくる手が止まらなくなる1冊です。



『ぼくが見たお父さんのはじめてのなみだ』

そうまこうへい // 作 石川えりこ // 絵  
佼成出版社

小学2年生のゆうきはお父さんが大好き。背が高くて、力が強くて、よく遊んでくれるからです。そんなお父さんの口癖は「男だろ!」。この間も「男だろ、なくな!」と言われたところです。ゆうきは、ふと思いました。そういえば、お父さんの涙を見たことがない…。お父さんには、泣くほど悔しかったことや悲しかったことはないのかな?お父さんと息子のやり取りに、温かい気持ちになる物語です。



『『いたいっ!』がうんだ大發明 ばんそうこうたんじょうものがたり』  
バリー・ウィッテンシュタイン // 文 クリス・スー // 絵 こだまともこ // 訳  
光村教育図書

アールは大好きなジョセフィーンと結婚できて幸せです。でも、ひとつ心配なことがありました。ジョセフィーンがとっても不器用なことです。料理をしようと切り傷、火傷で手がボロボロ。そんなジョセフィーンのために、アールが発明したのが、「バンドエイド (ばんそうこう)」!! 妻のための発明が、世界中に広がっていく様子が描かれています。



『しんぶんのタバー』

萩原弓佳 // 作 小池壮太 // 絵  
PHP研究所

ヒモでしばられた新聞の“タバー”は、おばあさんのイス! とっても座りやすくて大切にされています。ある日、王様が『いいイスコンテスト』を開催しました。国中のイスに混じってお城を目指す途中、次々と困っているイスに出会い、そのたびに助けてあげるタバー。しかしだんだん体の新聞紙が減っていき…。心やさしいタバーのお話です。



『ぼくのつばめ絵日記』

深山さくら // 作 宮尾和孝 // 絵  
フレーベル館

4年生になる春休み、北のほうへ転校することになった沢木雄太は、「北上する」つばめの事を聞いて興味をもちます。つばめの観察をして絵日記に書くうちに、雄太は町になじんでいき、最初は気まづかったクラスメイト・信との距離も縮まって…。

友達との別れと新しい出会いをつばめがつなぎます。



レッド あかくてあおいクレヨンのはなし』  
マイケル・ホール // 作 上田勢子 // 訳  
子どもの未来社

赤いクレヨンのレッドは、赤くぬるのが得意ではありません。練習しても、他の人が助けてくれても、何をやっても上手くできません。ある日、新しい友達がやってきて、本当のレッドの個性を発見し、それからレッドは輝きだします。

外見にとらわれず、ありのままの自分を認めてもらえる嬉しさを、クレヨンでやさしく表現しているおはなしです。